

ロシアでの生活

国際文化学科 2年 前谷英里

私はずっと外国に行ってみたいと思っていました。そして今回、とても興味を持っていたロシアへ行くことができました。外国へ行くのは初めてだったので驚くことばかりで、この4ヶ月間とても大切な時間となりました。

ロシアに来てまず、私はウラジオストクの坂の多さに驚きました。そして大学の周りの坂の傾斜がかなり急であることに衝撃を受けました。スニーカーで良かったと思いました。大学はとても広くて何度も道に迷いました。しかも、すべてロシア語で書かれているため、大学内でもかなりの冒険でした。大学の中にもお店があり大きい大学だと思いました。

私たちの暮らした寮は大学とつながっていて留学生のほとんどは寮で生活していたし、ロシア人も多く寮で暮らしていました。私の部屋は韓国の女の子と二人部屋で、隣の部屋も韓国人の女の子二人でした。寮は外国人と一緒にの部屋が良いか事前に希望をとっていました。彼女たちも数日前にロシアに来ていて私に部屋のことや寮のことをいろいろ教えてくれ頼もしい存在でした。言葉は初めのうちは英語で次第にロシア語を使いました。同じ部屋の子は私よりもずっとロシア語が分かるので宿題など教えてもらったり、ロシアのおすすめのお店の情報交換をしたり、今日あったことを話し合ったりとかけがえのない存在となりました。一緒に暮らした日々はとても楽しかったです。彼女たちは私たちが帰る10日ぐらい前に帰国したため、かなりさびしくなりました。ロシアに来て韓国も身近に感じるようになりました。



ロシアに来たばかりのころはまだとても暑い日々が続きました。寮も暑かったので半袖短パンは必須でした。一回洗濯に50ルーブルかかるため、洗濯もだいたい一週間に一回まとめてしました。こまごました物は手洗いをすることもありました。食べ物は、平日の場合、朝はパンやシリアルを食べ、昼は食堂で食べたり、安いパンを買って食べたりしました。夜は近くのスーパーで食材を買って作りました。実家暮らしだったこともあり料理はめったにしなかったため、苦労しました。そうならないためにも練習しておいた方がいいと思います。休日の場合はカフェなどへ行きました。安くておいしいお店が多くて、巡るのは楽しかったです。冬は、最高気温がマイナスという極寒でした。しかし、寮の中は暖かく半袖短パンの人もあるほどでした。しかし、部屋によってはなかなか暖まらない部屋がありました。とても寒かったです。でも韓国の子たちがまとまって寮母さんに言いに行

ってくれて、暖房を増やしてくれました。それからは快適に過ごしました。部屋の電気、コンロの不調があった時には寮母さんに言えば色々解決します。ルームメイトが知らない間に言ってくれていてとても助かりました。

授業では、変動はあったものの中国、韓国、ウズベキスタン、台湾などの留学生と一緒に勉強しました。そのほかにも各国から様々な留学生がロシア語を学びに来ていました。先生はロシア語で話し、最初のころは何を言っているかさっぱりわからなくてどうしようと思いました。しかし、先生はとても優しくわからないと言えばゆっくり話してくれたり、身振り手振りで教えてくれたり、英語で言ってくれたり理解するまで丁寧に接してくれました。授業では、自分たちの国のことについて発表したり、他の国の人と話し合ったりする機会も多くロシアだけではなく他の国の文化を学べて面白かったです。また、日本のこともとても興味を持ってもらえて嬉しかったし、もっと知っておかなくてはと思ったこともありました。授業では、他の国の人たちの積極性に驚きました。私も頑張らなくてはと思いました。クラスみんなは優しく、授業で困ったことがあるとすぐ教えてくれました。しかし、周りのみんなはわかるのに自分はわからないということに落ちこんだこともありました。宿題は多めに出たけれど地道にやるしかないのだなと思いました。今思うと、疲れている時でももう少し丁寧に宿題をすればよかったかなと思いました。ただ、授業は実際の生活に役立つものばかりで楽しみながら授業を受けることが出来ました。やはり、国によって文化は全然違うのだなと日々の生活で感じました。また、日本では当たり前

のことも他の国からすると当たり前ではないのだなと思うことも経験しました。例えば、時間の感じ方などです。授業は文法、会話、聞き取りの他、極東に関する授業や、音楽、美術、歴史があり、何をするにもロシア語の勉強ではあるけれども楽しみながら学習することが出来ました。困ったこととしては先輩方の報告書の中にパワーポイントを使わせる授業があるのでパソコンを持っていった方がよいという文を見つけたのが留学をする直前だったことです。自分のものを持っていなかったため急に買うこともできませんでした。しかしパワーポイントを使って発表をさせることが何回もありそのたびに持ってきた人に借りるという形になってしまったのでパソコンは必要だと思います。他の国の人でもパソコンは持っているようでした。



ウラジオストクでは、車が多いなと思いました。また、スピードを出す車も多く信号機はあっという間に青から赤に変わるため注意しなくてはなりません。日本の車も多

く、日本語が書かれた車を見ると不思議な気持ちになりました。また、驚いたことに横断歩道も何もないところを現地の人たちは普通に渡っていて車もちゃんと止まってくれました。怖かったけれど、次第に慣れました。坂が多い町であるため、外の眺めはとてもきれいでした。そして天気はだいたい晴れていて、夕焼けも美しかったです。そして、夜は建物の灯りが多くとてもきれいでした。

週末は町の中心部に行くことが多く、様々なカフェに行くことが出来ました。お手頃価格で美味しい食事をする事ができて満足しました。店員さんにも色々な人がいて、怖い人が多いのかと思いきや優しい人もたくさんいました。おつりが無い時は、もっと細かいお金はないのかと言われた時は焦りました。しかし、私のつたないロシア語にも真剣に聞きとってくれ、ほほえんでくれることもあり、理解してくれた時は嬉しかったです。本屋では素敵なデザインの本があったり、知っている本を見つけたりすると楽しくて、ついつい、いろいろと買ってしまいました。また、ロシアには花屋が多いなと感じました。日本では花屋の数はそんなに多くないし花を贈ることもそんなに多くないのではないかと思います。そんなことから外国だなと思いました。

バレエは初めて見ましたが、本当に美しかったです。劇場には綺麗な格好をしたロシア人がたくさん訪れていて、家族ずれも多くいました。値段もかなり手頃で、席によって値段は違うけれどこんなに安く見ることができてしまうのかと驚きました。日本であつたらずっと高いだろうと思います。バレエを見たのは初めてであつたからとても感動しました。



ロシア人はクールなイメージがありましたが、出会った人達はとても親切にしてくれました。どこでロシア人と知り合いになればよいのだろうと不安に思っていたけれど、日本語を勉強していたり、留学生のためのイベントに参加していたりと知り合うことが出来ました。いろんなところに連れ出してくれたり、寮での生活でわからないことを教えてくれたりととても親切にしてくれました。ボランティアでいろんな学生が町案内もしてくれて優しくしてくれました。いろんな人達と知り合うことが出来たのも、周りの人たちの優しさがあつたからこそだと思いました。うまく言いたいことが通じなくてもどかしい思いをすることもあつたけれど、実際にそういう経験をする事ができてもっと頑張ろうと思えました。日本語や英語が堪能な人も多くそれに甘えてしまうことも多かつたけれど、ロシア

語で話してみることはやはり大事だなと思いました。

留学を終えて

日本に戻って振り返ってみると、とっても濃い 4 カ月を過ごしたなと感じます。日本にいる時よりもずっと出かけていました。自分には新しいことばかりで刺激的な毎日でした。自分が外国人になるという体験は貴重だったなと思います。そして、ちょっとしたきっかけから、様々な人と知り合うことが出来ました。様々な考え方を聞いて面白かったし、とてもためになりました。こうしたことができたのもいろんな人に助けてもらったことや、協力してもらえたからこそだと思います。本当に感謝しています。これからの生活はこうした体験を無駄にしないためにも、もっと努力しなくてはと思いました。

